

令和6年度

研究集録

感じ取る 伝え合う より深く

—子どもの思いを尊重し、子どもの学びに寄り添って—

名古屋市音楽研究会

名古屋市音楽教育研究会

目次

I	研究のテーマおよび研究のねらい	1
II	研究の方法	
III	研究の内容	2
1	研修	
	(1) 音楽教育講演会	
	(2) 愛知県小中学校音楽教育研究大会（名古屋大会）	
	(3) 冬季研修会	
	(4) 生産・文化的部活動指導者研修会	
	(5) 学習会	
2	研究	
	授業研究部	
I	ねらい	3
II	活動の方法と内容	
III	活動の経過	3～9
	教育研究部	
I	ねらい	10
II	活動の方法と内容	
III	活動の経過と実践報告	11～19
	学習会	
I	ねらい	20
II	活動の方法と内容	

I 研究のテーマおよび研究のねらい

感じ取る 伝え合う より深く —子どもの思いを尊重し、子どもの学びに寄り添って—

現行学習指導要領において、音楽科の目標は「表現及び鑑賞の（幅広い）活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、（音楽文化）と豊かに関わる資質・能力を育成すること」である。「活動を通して」とは、多様な音楽活動を通して学習が行われることを前提として、子どもたち一人一人の個性や興味・関心を生かした楽しい音楽活動を展開していくことの重要性を述べたものである。

本研究会では、令和4年度から「感じ取る 伝え合う より深く」をメインテーマとし、昨年度は「—音や音楽と豊かに関わることを目指して—」をサブテーマとした。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のもと、音や音楽での表現や関わりを大切にしたい実践を行ってきた。ICT機器等を効果的に活用しながら、子どもたちが必要な資質や能力を高め、試行錯誤しながら学びを追究し、音楽のよさや他者の思いを感じ取る姿が多くの実践で見られた。

さて、本市では、令和5年9月に「ナゴヤ学びのコンパス」が策定された。そこには、どの学校園でも大人が大切にしたいこととして、「子どもは有能な学び手」と理解し、尊重、対話、チャレンジを大切にしながら、子どもの学びに伴走することが明記された。重視したい三つの学びの姿として、「自分に合ったペースや方法で学ぶ」「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」ことが取り上げられている。これまでも、音楽科において、「主体的な学び」や「協働的な学び」について、多くの実践がなされている。

しかし、全ての子どもを「有能な学び手」と理解して、教師が伴走者として学習を進めるまでには至らず、「学びのコンパス」に即した子ども中心の学びをどのように進めればよいのか不安に思う教師も少なくないとする。子ども中心の学びを進めるためには、教師が子どもの思いを尊重し、子どもの学びに寄り添うことが大切である。そのために、子どもたち自身が自己の学びについて見つめることができるよう、個に応じた学びの場の設定や、どのように声を掛けたり支援をしたりしていくかという子どもたちとの対話の工夫等が必要であるとする。さらに音楽科として、子どもたちと音楽との出合わせ方や、他者との関わりについても大切にしていきたい。子どもたちの「もっと学びたい」に寄り添うために、音楽科としての学びの在り方を追究し、発信できるよう研究を進めていきたい。

II 研究の方法

「全体研修」を行うとともに、「授業研究部」と「教育研究部」の二つの部会で授業実践を通して研究を進める。

「全体研修」では、学習指導要領の主旨を踏まえて、日々の授業に生かす指導方法や教材、授業展開例、評価の在り方等を学ぶ。また、部活動や校内の音楽的行事を進める上での効果的な指導法などを研修する。

「授業研究部」では、具体的な教材を基に、各学校の授業がより効果的に展開できるための指導法や指導上の留意点などの研究を行う。また、「教育研究部」では、各部員が授業実践の成果や課題を持ち寄り、意見交換する中で、より効果的な指導の在り方を目指して、論理的・実践的な面での研究を深める。

「全体研修」及び二つの部会の取り組みを通して、主体的・対話的で深い学びにつながる有効な学習活動を模索し、授業に生かすようにしていく。

Ⅲ 研究の内容

令和6年度の研究内容は、次の通りである。

1 研修

(1) 音楽教育講演会

ア 日時・場所 5月21日(火) 15:15～ イーブルなごや

イ 内容

○ 講演

- ・ 講師 名古屋市教育委員会義務教育課 指導主事 荒川 洋子 氏
- ・ 演題 「これからの名古屋の教育」

(2) 愛知県小中学校音楽教育研究大会(名古屋大会)

ア 日時・場所 8月7日(水) 12:45～ 名東文化小劇場

イ 内容

○ 研究発表

- ・ 発表者 大坪小学校 鈴木 彩香 先生
「主体的に音楽活動に取り組む児童の育成」
- ・ 発表者 中根小学校 相羽 美里 先生
「自らの思いや意図に合う表現を探究する児童の育成」

○ 講演

- ・ 講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 河合 紳和 氏
- ・ 演題 「これからの音楽科の授業づくりに求められるもの」
～育成を目指す資質・能力を視点とした題材構想のあり方～

(3) 冬季研修会

ア 日時・場所 2月15日(土) 10:30～ ルブラ王山

イ 内容

○ 研究発表

- ・ 教育研究部
「合唱って楽しいな!～音楽のよさを感じ取り、表現力を高める子どもの育成～」
高蔵小学校 鈴木 あゆ美 先生
「自分でできるって、楽しい!鍵盤ハーモニカ
～学習の見通しと振り返り活動を関わらせて～」
有松小学校 伊東 祐奈 先生
「音楽の楽しさや面白さを感じ、進んで音楽と関わることができる子どもの育成」
藤が丘小学校 近藤 優花 先生

・ 授業研究部

「子どもの学びに寄り添った授業の在り方」

○ 講演

- ・ 講師 名古屋市教育センター 指導主事 斉藤 玲子 氏
- ・ 演題 「音楽科に求められるもの」

○ 講評

名古屋市教育委員会義務教育課 指導主事 荒川 洋子 氏

(4) 生産・文化的部活動指導者研修会

部活動に必要な指導力向上を目指し、1講座を開催して研修を行った。

○ 合唱

- ・ 日時・場所 8月26日(月) 13:00～ イーブルなごや
- ・ 講師 合唱指揮者 本山 秀毅 氏
- ・ 内容 「合唱指導・合唱指揮の方法」

(5) 学習会

ア 日時・場所 12月7日(土) 14:00～ ほのか小学校 音楽室

イ 内容

「やってみよう☆学びのコンパス」
「みんなで合唱入門!」

2 研究

授業研究部

I ねらい

授業研究部は、よりよい授業を目指し、効果的な教材や教具、指導の手立て、支援の方法などを探ることを目的としている。そのために、毎回部会のテーマを設定し、指導のねらいを達成するための効果的な指導方法を提案する。また、子どもたちが主体的、創造的に音楽活動に取り組むことができるように、「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点から授業展開を考え、協議や演習を行う。具体的な活動内容や発問、教師の働き掛けなどについて考えることが授業改善の足掛かりとなり、よりよい授業を目指すことにつながると考える。

今年度は「感じ取る 伝え合う より深くー子どもの思いを尊重し、子どもの学びに寄り添ってー」というテーマを受け、子どもたちが自分で学びたい方法を選び、対話を通して思いを伝え合うことで、学びをより深めることができるよう、「子どもの学びに寄り添う」教師の支援方法を模索した。子どもたちが音や音楽から様々なことを感じ取り、他者と関わり合いながら主体的に音楽活動に取り組むことの楽しさ、すばらしさを存分に味わうことができるよう、授業研究を進める。

II 活動の方法と内容

1 効果的な指導方法の提案

「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点から、子どもの学びに寄り添うことの実現に向けた具体的な活動を提案する。また、子どもたちが主体的に活動するための工夫、対話や協働の方法、思いや意図を表現に生かすことができるようにするための指導方法や支援の仕方についても考える。

2 テーマに基づいた協議と情報交換会














「授業のスキルアップ」として毎回部会のテーマを設定し、授業展開や効果的な指導方法について協議する。また、実践例や授業における困り事を共有できる場として、小グループで意見交流をする「情報交換会」を設ける。グループは、小学校低・中・高学年、中学校の発達段階ごとで分けたり、歌唱・器楽・音楽づくり及び創作・鑑賞の領域ごとで分けたりすることで、様々な立場の教員同士で交流することができるようにする。

III 活動の経過（丸の内小学校にて開催）

- ・ 第1回部会 6月20日（木） 「知識や技能を高める指導方法」
「歌唱の基礎・基本教えます!!」
- ・ 第2回部会 9月18日（水） 「楽しく身に付く発声の練習」
「いつもの授業に生かせる合唱指導」
- ・ 第3回部会 10月23日（水） 「ICT効果的に活用した指導方法」
- ・ 第4回部会 12月17日（火） 「楽しく学ぶ鑑賞活動」
- ・ 第5回部会 1月30日（木） 「研究のまとめ」



「授業のスキルアップ～知識や技能を高める指導方法～」

子どもたちが音楽表現のための知識や技能を身に付けられる、授業の導入時の活動を提案した。また、授業での困り事や実践例について情報交換会を行った。

回	題 目	内 容															
第1回部会	<p>○ すぐに使える、楽しく知識や技能が身に付く常時活動① 成章小学校 戸田 彩華 先生</p>	<p>以下のようなイラストを使って、リズム遊びをすることで、遊びながら音符の違いを知り、音の長さを体感して身に付ける活動の提案を行った。</p>  <p>また、この活動に音階を付け、旋律をつくりながら音楽遊びも発展的に行えることを紹介した。この活動では、鍵盤楽器やリコーダーなどの演奏技能が高まるだけでなく、子どもが混同しやすい、リズムと旋律の違いを捉えやすることができることも紹介した。</p> <table border="1" data-bbox="702 884 1412 1265"> <tr> <td>シ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ラ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ソ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	シ					ラ					ソ				
	シ																
ラ																	
ソ																	
<p>○ すぐに使える、楽しく知識や技能が身に付く常時活動② 東築地小学校 宮島 志穂 先生</p>  <p>【変化させていく、音楽を形づくっている要素】</p>	<p>〈活動の流れ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教師が、通常の色や調で『メリーさんのひつじ』を演奏し、子どもに聴かせる。 ② 「変身メリーさん」と称し、音楽を形づくっている要素の一つ変化させて、もう一度演奏する。 ③ 「メリーさん」の様子がどのように変化したか、感じ取ったことを伝え合う。 <p>速度を速くしてみると「慌てているメリーさんになった」、短調で演奏してみると「悲しそうなメリーさんになった」など、複数の子どもに発表させることで、音楽を形づくっている要素と音楽の感じを表す言葉が結び付き、知識として習得することができる活動である。</p> <p>また、慣れてきたら、一つではなく、複数の要素を変化させることで、より発展的な活動になると紹介した。</p>																

「授業のスキルアップ～歌唱の基礎・基本教えます!!～」

豊かな声で歌うために必要となる、腹式呼吸や頭声発声の方法、強弱や言葉の発音などの表現するためのテクニックを中心に、既習曲を使用した指導方法の提案を行った。

回	題 目	内 容
第1回部会	<p>○ 歌唱の基礎・基本と、既習曲を使用した指導の提案 平田中学校 駒田 純子 先生 萩山中学校 亀丸 美緒 先生</p>	<p>○ 豊かな歌声をつくるためには、腹式呼吸や口の開け方が大切になることから、肋骨周りの筋肉を伸ばすストレッチを行いながらブレスをする練習や、喉を開く感覚をつかむために耳の後ろのくぼんだ部分に指を当てて口を開く練習を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="247 593 794 974">  <p data-bbox="331 981 719 1010">【ストレッチしながらブレスを行う様子】</p> </div> <div data-bbox="853 593 1407 974">  <p data-bbox="911 981 1366 1010">【耳の後ろのくぼみに指を当てて口を開く様子】</p> </div> </div>
		<p>○ ナポリ民謡『サンタルチア』を使用して、豊かな声量で歌う方法、強弱記号の表現方法、言葉の発音について学習した。</p> <p>① 豊かな声量 豊かな声量で歌うためには腹式呼吸と息の流れがポイントとなる。そこで、お腹に手を当てて腹式呼吸を意識し、「スー」と息だけで旋律を歌ったり、リップロールで歌ったりする練習を行った。</p> <p>② 強弱記号の表現方法 大きい音を出すためにしっかり口を開け、腹式呼吸を使ってたっぷり息を吐く練習や鋭く息を吐く練習を行った。小さい音を表現する時には、息の量を減らしても息のスピードを緩めず下腹部を軽く引き締める必要がある。内緒話をするようにして歌詞を朗読し、引き締まった下腹部の感覚をつかんでから、歌う練習も行った。</p> <p>③ 言葉の発音 歌詞の語頭に子音を書いた楽譜を見て、歌詞を朗読する練習を行った。子音を発音する際、体のどこを使うとよいのか考えながら練習した。(例：Kの子音は喉に引っ掛けて発音する。Tの子音は上顎に舌を付け勢いよく下ろして発音する。など)</p>

「授業のスキルアップ～楽しく身に付く歌唱指導～ 活動①楽しく身に付く発声の練習」

活動①では、楽しみながら発声を身に付けることができる効果的な活動と指導のポイントを教えてください、実際に体を動かしながら学んだ。

回	題 目	内 容
第2回部会	<p>○ 楽しく身に付く発声の練習 声楽家 塩谷 幸大 氏</p>  <p>【分かりやすく手本を見せてくださる塩谷氏】</p>	<p>○ 呼吸の仕方とそのポイントについて学んだ。 【呼吸トレーニング】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 壁に背を向けて立つ ② 手のひらは壁側に向ける ③ 短く息を吸って吐くことを繰り返す <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆ポイント</p> <p>息を吸う時に、お腹を斜め下に突き出すようにするとよい。壁から離れるようなイメージで息を吸うことで横隔膜が下がり、息を吐く時には、お腹が自然と戻っていく。息を吐く時は、顔を下げないことが大切。</p> </div> <p>○ 常時活動として行うことができる発声練習について学んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 上半身の脱力を意識した、発声練習 「ドレミファソファミレド」の音階を、足を開き、上半身を左右にひねりながらハミングで歌う。上半身をひねりながら歌うことで、上半身に無理な力が加わることなく自然な発声ができる。 ② 音階トレーニング 「ドミソミド」の音に合わせて、go(ゴー)gei(ゲイ)nya(ニャ)nye(ニエ)nyo(ニョ)など、様々な発音で歌う音階トレーニングを行った。頭のとっぺんに向かって響かせるように意識して発声することが大切であることを学んだ。 「ドミソドーードソミドー」の音に合わせて、「go(ゴ) go(ゴ) go(ゴ) gei(ゲイ) gei(ゲイ) ge(ゲ) go(ゴ) go(ゴ) go(ゴー)」の発音で歌う音階トレーニングを行った。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆ポイント</p> <p>バランスボールに座っているイメージをもち、上半身を脱力させ、膝を使って体を上下させながら歌う。上半身の力が抜けることで、伸びやかな歌声になる。また、重心を下げれば下げるほど、声がよく出るようになる。</p> </div>
	 <p>【上半身をひねり、脱力を体感する様子】</p>	
	 <p>【重心を下げて音階トレーニングを行う様子】</p>	


「授業のスキルアップ～楽しく身に付く歌唱指導 活動②いつもの授業に生かせる合唱指導～」

行事などでも使える二部合唱曲『大切なもの』を使って、普段の授業に生かせる合唱指導を学んだ。

回	題 目	内 容
第2回部会	○ いつもの授業に生かせる合唱指導	○ 合唱指導のポイントを確認しながら、合唱をつくり上げていく活動を行った。
	<div data-bbox="323 468 1313 757" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="630 768 987 804" data-label="Caption"> <p>【『大切なもの』を合唱する様子】</p> </div> <div data-bbox="684 826 970 866" data-label="Section-Header"> <p>【合唱指導のポイント】</p> </div> <div data-bbox="451 875 1232 913" data-label="List-Group"> <p>① 明瞭な発音 ② 響きのある美しい発声 ③ 声量アップ</p> </div> <div data-bbox="724 940 1453 1561" data-label="List-Group"> <p>① 明瞭な発音にするために、歌詞（例：【そらに ひかるほし～を～】を母音【O A I IAU O I～O～】で朗読し、歌唱した。母音を発声するときの喉の開きや響く感覚に慣れることで子音が際立ち、明瞭な発音で歌唱することができた。</p> <p>② 響きのある美しい発声にするために、口を塞いで歌うことによって、より喉を開き、地声を防ぐことがわかった。</p> <p>③ 声量をアップするために、口を塞いで歌った。負荷が掛かることによって、より声を出そうとしたり、口を動かそうとしたりする。口を塞ぐことによって、より喉が開き、地声予防となる。自然と腹斜筋に力が入り、声量アップにつながった。</p> </div> <div data-bbox="323 1570 1313 1859" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="638 1865 1010 1901" data-label="Caption"> <p>【駆け足をしながら歌唱する様子】</p> </div> <div data-bbox="724 1908 1453 2042" data-label="List-Group"> <p>④ その場で駆け足をしながら歌った。両腕を振りながら歌うことによって、息を吸った際に胸の開きを意識することができ、声量が増した。</p> </div>	

「授業のスキルアップ～ICT を効果的に活用した指導方法～」

デジタル教科書や探究学習・協働学習システムを活用した学習方法の提案や、音楽づくり・創作で活用できる Web アプリケーションの基本的な使い方を、タブレット PC を活用して学び合った。

回	題 目	内 容
第3回 部会	<p>○ リコーダーにおける個別最適な学びの方法 成章小学校 戸田 彩華 先生</p>  <p>【練習の方法を考えるシンキングツール】</p>  <p>【教室での活動の様子】</p>	<p>○ 小学校3年生の教材『かえり道』と『レッツゴーソーレー』について、ICT を活用して個別最適な学びを行う活動紹介をした。タブレット PC のシンキングツールを活用し、子どもが自分で練習の方法を選んで自由な進度で練習を進めることができるよう、デジタル教科書や動画の活用方法を紹介した。</p> <p>『レッツゴーソーレー』の練習では、子どもがめあてを決め、準備した2パートの初級、中級、上級の6種類の楽譜と動画を活用できるようにした。子どもが自由に楽譜を選んで、自分で決めた練習方法で活動した。</p> <p>○ 自信がある子は赤い帽子、自信がない子は白い帽子をかぶり、それを見て子どもが互いに助け合いながら学び合う様子が見られた。</p>
	<p>○ 音楽づくりや創作で活用できる Web アプリケーションの基本的な使い方講座 鎌倉台中学校 田中 省吾 先生</p>  <p>【提出された楽譜と音源データ】</p>	<p>○ Web アプリケーションの基本的な使い方を紹介した。Web 上の動画マニュアルに沿って、参加者が実際にタブレット PC を操作しながら学んだ。</p> <p>① 操作方法を覚えつつ『春が来た』の楽譜を制作した。その楽譜を PDF ファイルで出力し、音源を mp3 ファイルで保存した。作成したファイルは、楽譜を見ながら音源を聴くことができるように、ファイルを重ねて探究学習・協働学習システムにアップする方法を紹介した。</p> <p>② 音色を変える、パートを増やす、リズムパートを追加するなどの機能も体験し、参加者が徐々に使い方に慣れる様子が見られた。</p> <p>③ 実際に授業の場で使うことを想定し、「ルール」機能を用いて制限することやメトロノーム機能を創作以外の活動にも応用できることを紹介した。</p> <p>また、使い方動画や、サンプルファイルを用いて、Web アプリケーションの導入をスムーズにする方法について紹介した。</p>

「授業のスキルアップ～楽しく学ぶ鑑賞活動～」

鑑賞活動の進め方や鑑賞のポイントなど、授業を行う上で大切なことを確認した。また、子どもたちがより楽しく曲を聴き、味わうことができる授業展開を提案し、学び合った。

回	題 目	内 容
第4回部会	<p>○ 鑑賞活動の基礎・基本の紹介 『つるぎのまい』 丸の内小学校 石黒 一江 先生</p>  <p>【楽器を演奏する様子】</p>  <p>【体を動かして鑑賞する様子】</p>	<p>○ 曲中の「音楽を形づくっている要素」や「音楽の仕組み」を聴き取ることが鑑賞のポイントであることを確認し、教科書に記載されている「音楽のもと」を聴き取ることができるような授業の組み立て方を紹介した。</p> <p>旋律を演奏する楽器は何かを考えさせることで、興味をもって曲を聴くことになり、また、実際に簡単な旋律を演奏することでその曲の「速さ」や「旋律の動き」を体感することができた。</p> <p>木琴役とトロンボーン役に分かれて演奏する仕草をすることで、合いの手の関係になっていたり、二つの楽器の音が聴こえてこない中間部分があったりすることに気付くことができた。体を動かして楽しみながら曲を聴く中で、「変わった!」「これまでとは違う!」と気付かせることが、「音楽のもと」を聴き取るきっかけにつながるということが分かった。</p>
	<p>○ 聴いて！動いて！見て！感じ取る！鑑賞活動『ノルウェー舞曲』 成章小学校 戸田 彩華 先生</p>  <p>【ボール回しをする様子】</p>  <p>【シンキングツールにまとめる様子】</p>	<p>○ 4年鑑賞曲『ノルウェー舞曲』の特徴である、三部形式（A-B-A）、速度変化、音色（演奏される楽器の違い）について聴き味わうことができるような授業展開について紹介した。</p> <p>【視覚化、体感することで、興味や問題意識をもつ活動】</p> <p>① 大きな輪になり、冒頭部分を聴きながら拍に合わせて「爆弾ゲーム」のようにボール回しをする。</p> <p>② ボール回しをしながら、A-Bまで聴く。</p> <p>【協働しながら探究する】</p> <p>③ グループで、A-B間で何がどのように変化したのかを聴き取り、シンキングツールにまとめる。</p> <p>④ 各グループの考えを共有する。</p> <p>【聴き味わう】</p> <p>⑤ A-Bの続きを予想してから、曲全体を聴く。</p> <p>⑥ 曲のよさについて文章にまとめる。</p>
「研究のまとめ」		
第5回部会	<p>○ 冬季研修会に向けた発表の検討と授業研究の振り返り</p>	<p>○ 冬季研修会における研究発表の内容について検討した。また、一年間の授業研究部会の活動を振り返り、成果と課題について話し合い、次年度の研究の方向性について共通理解を図った。</p>

教育研究部

I ねらい

教育研究部では、日々の授業実践を基に、音楽及び音楽教育全般に対する見識を高め、音楽教育の今日的な課題解決に向けて取り組むことを主な目的としている。そのために、新たな教育課題や実践研究の進め方について部員相互で話し合い、目の前の子どもの実態に基づいたテーマの設定、実践の進め方、検証や分析の方法などについて研修する。どのような子どもを育てたいのかを明確にし、目指す子ども像に迫るための具体的な手立てについて考えたり、自身の指導の在り方を振り返り、効果的な指導法について意見交流を行ったりしていく。

今年度の「感じ取る 伝え合う より深くー子どもの思いを尊重し、子どもの学びに寄り添ってー」というメインテーマに迫るために、「ナゴヤ学びのコンパス」で示されている重視したい三つの姿「自分に合ったペースや方法で学ぶ」「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」を意識した授業を展開できるようにする。子どもが主体性をもち、自ら学びを進めていく中で、音楽のよさや面白さを感じ取り、豊かな音楽表現ができる指導の在り方を模索していきたい。そのために、以下の点に重点を置き、実践研究を進めていく。

- 自分に合ったペースや学習方法を選択することは、子どもが主体性をもち、自ら学びを進めていくために有効であるかの検証
- 「このように表現したい」という思いを音楽表現に生かすために、必要な知識や技能の習得を目指した指導・支援の在り方についての検証
- 自らの課題について考えることが、より豊かな音楽表現を行うために有効であるかの検証

音楽は、心に響くものであり、感動をもたらすものである。子どもたちが主体的に音楽と関わり、互いに学び合いながら考えを深めたり音楽表現を高めたりしていくことで、音楽による感動体験を味わい、豊かな情操を育てていくことができるよう、研究を推進していきたい。

II 活動の方法と内容

今年度も「水曜日は Music Day!」と題し、毎月1回程度、水曜日に研修会を開いて、実践研究を進めてきた。そこでは、日々の授業実践のまとめ方を学んだり、授業実践の中で用いた指導方法の成果や課題を話し合ったりして、更に効果的な指導方法を模索する。

1 日々の実践のまとめ

- (1) 講師を招き、研究の進め方やまとめ方、研究レポートの作成の仕方を研修する。
- (2) 会員の応募論文(教育研究派遣員、組合教育研究、指導体験記録、名古屋市教育研究員等)や様々な研究レポート(校内研修、センター研修等)に取り組む予定についてアンケート調査を行い、個別に支援する。

2 効果的な指導方法の模索

- (1) 授業実践の成果や課題を共有し、指導方法の効果を話し合うことで、新しいアイデアにつなげていく。
- (2) 日々の実践での悩みを共有し、部員個々がもつ、指導方法やアイデアを伝え合うことで、一人一人の指導技術を高めていく。

Ⅲ 活動の経過と実践報告

第1回「水曜日は Music Day!」 令和6年6月19日(水) 18:30～ ほのか小学校 教育論文の書き方について

豊国中学校長 二階 千晶 先生

第1回「水曜日は Music Day!」では、会の冒頭に、教育研究部の部長である大坪小学校 鈴木彩香先生からの挨拶があった。その後、豊国中学校長 二階千晶先生より教育論文の書き方について、ご講演いただいた。

「1 論文を書く前に」「2 論文の組み立て方」「3 実践の流れ」「4 実践のまとめ」の大きく四つに分けた内容についてご講演をいただいた。1、2では、目指す子どもの姿と、実際の子どもの姿との間にある隔たりから具体的な手立てや指導法を考えていくことが重要であること、さらに子どもの実態を考慮しながら、育てたい子どもの姿を具体化し、テーマや手立てを考える必要があることを教えていただいた。

○ どのような子どもを育てたいか。

→「私は、(音楽の授業を通して)〇〇のような児童(生徒)を育てたい。」

○ 目の前の子どもたちのよいところ、課題となるところは？

→「目指す姿は〇〇だが、実際の姿は、●●である。」

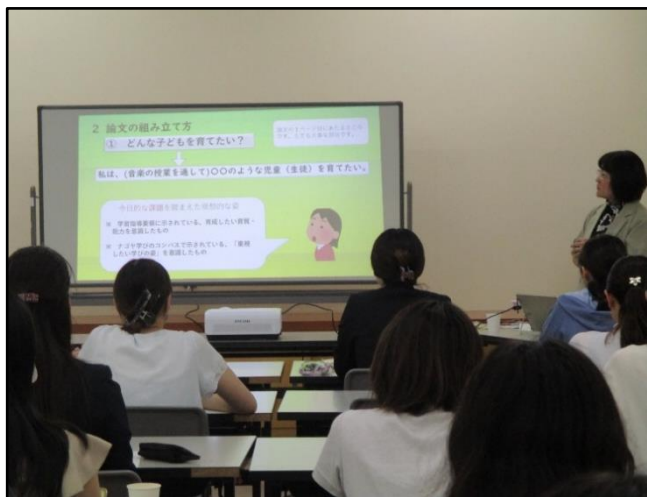
○ どのような授業を目指している？

→「〇〇のような児童(生徒)を育てるには、◇◇や◆◆の力が必要。」

→「そこで私は、(手立て1)や(手立て2)の方法で実践に取り組むことにした。」

【「2 論文の組み立て方」の資料より抜粋】

3では、実践を進める中で、子どもの反応に応じて手立てを修正する必要があること、4では、実践の成果や課題に加え、今後の課題も明らかにしながらまとめをすることでより分かりやすく、説得力のある研究のまとめになることを学んだ。教師の思いが先行してしまうこともあるが、子どもファーストの実践であることが何より大切であることを改めて実感した。



【二階先生の講演の様子】



【講演を聞く参加者の様子】

第2回「水曜日は Music Day!」 令和6年7月10日(水) 18:30～ ほのか小学校
1学期の授業実践 振り返り

第2回「水曜日は Music Day!」では、1学期の授業実践についての報告と振り返りを行った。参加者は、各自の実践を通して得た成果や、課題に基づいた今後の実践について話し合った。さらに、互いにアドバイスやアイデアを伝え合った。

互いのアイデアを伝え合うことで、今まで自分では気付くことができなかった手立てや指導方法について学ぶことができ、2学期の実践に向けて自分自身の授業を見つめ直す貴重な時間となった。

「自分に合ったペースや方法で学ぶ」とは、
どのように授業を組み立てたらよいのか。

- 💡 具体的な学習チェック表を作って、自分の力に合わせた練習方法を選択できるようにした。
- 💡 手元が見える手本動画を児童用タブレットに送って、動画を見ながらリコーダー練習ができるようにした。

子どもが楽しく取り組める授業とは、
どんな活動を取り入れたらよいのか。

- 💡 子どもができたことを大胆に褒めたり、教師と一緒に音楽を楽しむ姿を見せたりするとよい。
- 💡 教師主導を進める授業だけでなく、子どもと一緒に考えながら授業を組み立てるのもよい。

各参加者の実践について詳しく聞くとともに、授業で使用した資料の共有も行った。探究学習・協働学習システムを活用した個別の学習カードや、リコーダーの運指がよく分かるように手元を映した範奏動画など、子どもが自分に合ったペースや方法で学ぶことができるような様々な手立てを共有することができた。単元を通した学習資料を作成することで、子どもがスムーズに活動でき、自分に合ったペースや方法を選択して学習を進める環境を整えることができると再確認できた。

月 日	今日のめあて
取り組んだこと (丸を付ける)	ア① ア② ア③ ア④ イ① イ② イ③ イ④ ウ① ウ② ウ③ ウ④
使ったもの (丸を付ける)	楽譜だけ 伴奏と音 伴奏 手本動画1 手本動画2 メトロノーム その他

【学習方法や進度を選択できる学習カードより抜粋】



【手元を映した範奏動画】

【研究テーマ】

音楽の楽しさや面白さを感じ、進んで音楽と関わることができる子どもの育成（小学校4年生）

1 研究のねらい

本学級の子どもたちは、何事にも前向きに取り組むことができ、音楽の授業においても、楽しんで取り組む様子が見られる。しかし、「もっとこんな風に表現したい」「こんな演奏を目指したい」というような思いをもったり、よりよい表現を工夫したりするところまでには至っていない。そこで、自分に合ったペースや方法を選択し、主体的に学習に取り組むことでよりよい音楽表現を工夫することの楽しさや面白さを感じ、進んで音楽と関わることができる子どもを目指す。

2 研究の内容

(1) 自ら学びを調整し、主体的に学習に向かうための振り返りカード

1時間の授業の中で、「見通し」「行動」「振り返り」のサイクルを行うことで、自らの課題を見付け、自己解決に向けて主体的に取り組むことができるようにする。

(2) 課題解決のための教材教具・場の工夫

何度もリズムや旋律を書き換えることができるような「おはやしづくりカード」を活用する

ことで、グループでの話し合いや、表現の工夫に取り組みやすくする。また、個人の活動とグループの活動の場所を分け、自らの課題に合った方法を選択し、主体的に活動できるようにする。

3 研究の経過

題材名：日本の音楽と世界の音楽『おはやしづくりにチャレンジ!』

学習活動	子どもの様子
<p>1 振り返りカードを基に、学習の見通しをもつ。</p> <p>2 「おはやしづくりカード」を活用して、表現の工夫をする。</p>	<p>C：「まずは、打楽器チームと笛チームに分かれて演奏してから、みんなで合わせよう」</p> <p>C：「終わりがかっこよくなるように、最後に掛け声も考えようよ」</p>  <p>【みんなで合わせて演奏する様子】</p>
<p>動画を撮って正しく演奏できているか、確認してみよう!</p>  <p>太鼓チーム</p>  <p>笛チーム</p> <p>【楽器ごとに分かれて演奏する様子】</p>	 <p>【旋律を書き換える様子】</p> <p>楽しい感じにするためにリズムを細かくしよう!</p> <p>C：「太鼓と笛がバラバラだから、笛は、太鼓の音を聴いて演奏してほしいな」</p> <p>C：「最後は『ヤー!』の掛け声で終わろう」</p>
<p>3 振り返りと今後の学習計画を立てる。</p>	 <p>【振り返りカードより抜粋】</p>

4 研究のまとめ

振り返りカードを基に、自分の課題を考え、「見通し」「行動」「振り返り」のサイクルをつくったことで、発表会までの見通しをもつことができた。また、「おはやしづくりカード」を活用してグループで表現の工夫に取り組むことができ、自分たちで学習計画を立てながら主体的に取り組むことができた。しかし、個人とグループの二つの目標を考えて活動したため、演奏に取り組むまでに時間を要した。

今後は、グループの目標を中心に考えて、そのために個人で取り組む内容を選択するなど、子どもがスムーズに活動できるような学習の流れを考えていきたい。

第3回「水曜日は Music Day!」 令和6年8月21日（水）17:30～ ほのか小学校
2学期の授業実践に向けて

夏休み終盤に行われた第3回「水曜日は Music Day!」では、1学期の実践の様子を報告し合い、それぞれの課題や2学期に向けての計画について意見を出し合った。歌唱・器楽・音楽づくりにおいて、「個別最適な学び」を実現するために、「自分に合ったペースで」「自分に合った方法で」取り組めるようにするには、どのような手立てが有効かについて話し合った。



【「個別最適な学び」の実現について話し合う様子】

探究学習・協働学習システムを活用し、子どもが個人のめあてや方法、取り組みの様子について振り返ることができていた。1枚のカードにまとめていくことで、主体的に自分に合った方法を選び、活動を振り返ることができた。また、実践からは子どもが自分の技能の高まりを感じている様子も伺え、参加者の先生方から「ぜひ授業に取り入れてみたい」との声が聞かれた。達成すべきポイントや目標、取り組み方を子どもに示し、子ども自身が振り返りの中で「自分の演奏には何が足りないか、そのためにどうすればよいか」ということに気付き、考えを深めることが大切だと確認し合い、2学期の実践に向けてのアイデアが得られた会となった。

【研究テーマ】

自分に合ったペースや方法で学ぶ、鍵盤ハーモニカ学習 (小学2年生)

1 研究のねらい

本学級は、音楽の曲想を感じ取り、旋律に合わせて体を動かしたり歌ったりすることが好きな子どもが多い。鍵盤ハーモニカの演奏にも一生懸命取り組む様子が見られるが、次々に新しい曲が演奏することができるようになる子どもがいる一方で、思うように演奏することができないと感じている子どももいた。そこで、自分に必要な課題を考えたり選んだりする活動を取り入れ、自分に合ったペースや方法で学ぶことができる子どもの育成を目指す。

2 研究の内容

- (1) 教師が範奏を聴かせたり子どもの演奏を取り上げたりし、適切な息の強さや曲想に合った演奏を示す。
- (2) 練習カードを用意し、取り組む箇所、めあて、方法を選択できるようにする。また、振り返りを行うことで、次回の課題を考えることができるようにする。
- (3) 探究学習・協働学習システムに範奏動画を用意し、旋律や指の動きを確認しながら演奏を行うことができるようにする。

3 研究の経過

題材名：めざせ楽器名人（1）『かつこう』

学習活動	子どもの様子
<p>1 教師の伴奏に合わせて階名で歌う。</p> <p>2 練習カードを見て前時の振り返りを確認し、「①今日練習するところ」「②今日のめあて」「③どのように練習するか」を選択して取り組む。</p>  <p>【探究学習・協働学習システムに用意した動画】</p> <div data-bbox="183 763 743 1003" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>1 段目が苦手だから、 範奏動画をゆっくり再生して、 指の動きをまねしよう。</p> </div>  <p>【範奏動画の再生速度を選択して演奏する子ども】</p> <p>3 個別の活動を生かして全員で演奏する。</p> <p>4 練習カードに本時の演奏を振り返り、次回に取り組みたいことを記入する。</p>	<p>C : 「ドレミで歌えるようになってきたよ」</p> <p>C : 「前回演奏したところがまだできないから、今日も1段目を練習しよう」「もっとすらすら演奏できるようになりたいな」</p>  <p>【子どもが記入した練習カード】</p> <div data-bbox="735 875 1437 1010" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>動画の演奏を聴いて、正しい音やリズムを確かめたいな。</p> </div>  <p>【自分に合った範奏動画を選択して演奏する子ども】</p> <p>C : 「練習したところが吹けるようになった」</p> <p>C : 「次は2段目の旋律をもっとすらすら吹けるように頑張りたいな」</p>

4 研究のまとめ

練習カードや範奏動画を用意したことで、子どもが自分に合った方法を選択し、時間配分を考えて自分に合ったペースで演奏することができた。また、範奏動画の再生速度を変えたり、繰り返し再生したりするなどの活動を通して、自分の課題を解決することができた。しかし、自分に合ったペースで学ぶことはできたが、一部分しか演奏できない子どもや、ゆっくりとした速さでしか演奏できない子どもが、達成感を味わえるような活動を取り入れられなかった。

今後は、演奏を聴き合ったり、分からないことを教えてもらったり、互いの演奏から気づきを得たりする協働的な活動を取り入れ、自分に合ったペースや方法で学ぶ子どもの育成に努めていきたい。

第4回「水曜日は Music Day!」 令和6年10月2日(水) 18:30～ ほのか小学校
2学期の授業実践に向けて

第4回「水曜日は Music Day!」では、2学期に予定している授業実践の内容についての悩みを共有した。特に「子どもが主体的に活動に取り組むための手立て」についての悩みが多く上がり、ICT機器を活用した授業アイデアが話題となった。

自分がつくった旋律を、すぐに確かめることができる学習教材を活用してみたいです



【授業について話し合う様子】

音楽づくりの授業では、楽器の種類や旋律の形など、子どもが選択して活動する場面が増えることが考えられる。そこで、探究学習・協働学習システムを活用して伴奏を子どもに配信し、自分で何度も演奏を試すことができるようにする方法や、音や楽器を選択すると旋律が流れる学習教材を活用し、器楽演奏が苦手な子どもも抵抗なく音楽づくりに取り組むことができるようにする方法が話題になった。子どもにどのような力が身に付けばよいのかを明確にし、実態に応じた環境を整える必要があることを話し合った。

歌唱の授業では、ICT機器を活用し、一人一人に合った学習活動が話題になった。また、授業の振り返りでは、次の時間の自分に向けて手紙を書くことで、課題や方法が明確になったという報告があった。子どもが主体的に取り組むには、「目標をもつこと」が大切であることを再認識し、授業を見つめ直す貴重な機会になった。

【研究テーマ】

合唱って楽しいな！

～音楽のよさを感じ取り、表現力を高める子どもの育成～ (小学4年生)

1 研究のねらい

本学級は、部分的に二部合唱で歌った経験はあるが、旋律が重なる美しさや楽しさを感じながら合唱をするという経験が浅い。積極的に歌う子どもが多いものの、表現に対する思いをもつことができず、曲想にふさわしくない歌い方をする場面や、自分たちの課題を見付けることに難しさを感じている場面が見られる。また、歌唱することに対して消極的な子どもも一定数いる。そこで、子ども一人一人が合唱活動を楽しめるように、音楽のよさを感じ取り、表現力を高める子どもの育成を目指す。

2 研究の内容

(1) 曲に対する理解を深める工夫



音楽のよさを感じ取るために、身体表現を用いて音楽の仕組みや音楽を形づくっている要素の働きを理解し、歌詞から想像した情景を伝えるための表現に対する思いをもつことができるようにする。

(2) 課題を見付け、自分に合ったペースや方法で学ぶ環境の設定

表現力を高めるために、録音した歌声を聴いて課題を見付け、その課題に合った方法を自分で選択して学習を進めることができるようにする。

3 研究の経過

題材名：にっぽんのうた みんなのうた(3)『もみじ』

	学習活動	子どもの様子
手立(1)	<p>1 歌詞から情景を想像し、どのように歌うと様子が伝わるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽の仕組みを身体表現や楽譜に書き込んで表し、表現のよさを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレスをそろえる ・ やさしい音色で歌う ・ なめらかに歌う ・ 強弱をつける ・ 音の重なりをきれいに歌う </div> <p>【子どもの表現に対する思い】</p>	<p>C：「きれいな紅葉の様子を伝えたいね」</p> <p>C：「『ゆかいに歩けば』とは違ってなめらかに歌うと思う」</p>  <p>「松を彩る」で音が高くなっているよ。</p> <p>ここをきれいに響かせたいな。</p> <p>【音高を手で表す様子】</p> <p>C：「二つの旋律が途中から同じリズムになるね」</p> <p>C：「三段目から強弱を盛り上げるといいと思う」</p> <p>C：「盛り上げると松が彩っている様子が伝わると思う」</p> <p>C：「音が重なっているところをきれいに歌いたいな」</p>
手立(2)	<p>2 課題に取り組む。</p> <p>伴奏や一部分の旋律が録音された練習シートや、方法を示したアドバイスカードを提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>部分練習(4だん目の音程)</p> <p>【やまのふもとの すそもよう】 上パート入り</p> <p>上パート→音程チェック 下パート→音を重ねる練習</p> </div> <p>【練習シートより抜粋】</p> <p>3 二部合唱を録音する。</p> <p>4 録音を聴いて振り返り、次時の目標をもつ。</p>	 <p>「すそもよう」の音程が下パートを聴くと分からなくなるから練習しよう。</p> <p>【グループ活動の様子】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>音程 ? ①音程が分からない!</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 録音の歌、楽器の音、友達の声聴いて高さをはかる練習をしよう! (ロイロ・キーボード・友達・先生) <input type="checkbox"/> 苦手なところを部分練習しよう! (ロイロの部分練習シート) <input type="checkbox"/> 分れてきたら他のパートを聴きながら歌おう! (ロイロ・友達) <p>次の音はどのくらいの高さかな…と想像して手で音の高さを表しながら歌うと音が取りやすくなるよ!</p> </div> <p>【アドバイスカードより抜粋】</p> <p>C：「慣れてきたから、上のパートと一緒に歌いたいな」</p> <p>C：「強弱を付けたので、次回はより声を響かせて歌いたい」</p> <p>C：「どちらのパートもバランスよく聴こえるときれい」</p>

4 研究のまとめ

音高を手で表すなど、実際に身体で表現することを通して音楽の仕組みを理解し、曲のよさを表現に生かすことができた。また、課題を見付け、自分に合ったペースや方法で学ぶことができた。一部分の旋律が録音された練習シートや表現力を高めるために課題解決の方法を示したアドバイスカードを用いることで、活動の進め方や具体的な方法が分かり、歌唱力を高めることができた。

今後は、このように表現したいという明確な思いをもって表現方法を考え、表現力を高める子どもを育てていきたい。

第5回「水曜日は Music Day!」 令和6年11月13日(水) 18:30～ ほのか小学校
授業実践を振り返って

第5回「水曜日は Music Day!」では、今までの授業実践の振り返りとともに、学年の締めくくりに向けて検討を行った。個人での振り返りを行った後、各実践での手立てを他学年に応用することはできないか話し合うことで、授業づくりの参考にすることができた。

また、授業実践の悩みを共有する場面では、音楽の授業において自由進度学習の要素をいかにして取り入れることができるのか話し合った。歌唱の授業では、音色や強弱などの要素ごとに分かれたグループで取り組む実践例が挙げられた。また、その際に、歌唱時に気を付けるとよいことが記載されている「アドバイスカード」を活用することで、それぞれのめあてに迫ることができることが確認できた。器楽(1年生、鍵盤ハーモニカ)の授業では、教師が撮影した範奏動画に、階名や指番号などを加えた複数の動画を用意し、子どもが自分に必要なものを選んで活動するという実践が紹介された。



【話し合いの様子】

今年度最後の部会であったので、校長先生、教頭先生方からお話をいただいた。授業づくりについて、「先生と子どもの双方が楽しみながら工夫していくことが大切」という話から、音楽を通して関わりを大切に、楽しみながら子どもと共に成長していきたいという思いを高めることができた。

【研究テーマ】 自分でできるって、楽しい! 鍵盤ハーモニカ
～学習の見通しと振り返り活動を関わらせて～ (小学校1年生)

1 研究のねらい

本学級は活発な子どもが多く、音楽の授業に積極的に取り組んでいる。しかし、歌唱に比べて器楽の演奏経験が少ないためか、鍵盤ハーモニカを使った学習活動に消極的な子どもが多い。また、指使いやタンギングに難しさを感じている子どももいる。そこで、振り返り活動を通して、子どもが自らの演奏の課題を見出し、それぞれの課題に合った方法を選んで取り組めるようにすることで、演奏を楽しみ、主体的に音楽学習に取り組むことのできる子どもの育成を目指す。

2 研究の内容

- (1) 題材の全体像を「めざせ! けんばんマスター! マップ」に示し、曲ごとに新しく登場する演奏技術(がんばりポイント)について確認ができるようにする。
- (2) 学級のキャラクター「けんハン」に手紙を書くという形式で振り返りカードに練習の成果や課題を書く。



【学級のキャラクター「けんハン」】

また、毎時間、授業の最後に演奏を録画し、教師に送る。次回の練習時にキャラクターからの返事という形で教師からのフィードバックも得られるようにする。

- (3) 「おすすめ れんしゅう ほうほう」(各課題に合った範奏動画)を用意し、探究学習・協働学習システムで配信することで、各自の課題に合った取り組みができるようにする。

3 研究の経過

題材名: けんばんハーモニカのおけいこ 中心教材: 『かえるのがっしょう』

学習会

「明日につながるわくわく音楽学習会」

令和6年12月7日（土） ほのか小学校

I ねらい

「ナゴヤ学びのコンパス」を意識した授業づくりを学び、子どもたちが主体的に学ぼうとする指導の在り方や支援の方法を考える。

II 活動の方法と内容

1 やってみよう☆学びのコンパス

講師：たかしま小学校 光川知里先生、笠寺小学校 徳田幸子先生

前半は、光川先生が小学校1年生を対象に実践された授業を紹介していただき、「ナゴヤ学びのコンパス」を意識した授業づくりについて考えた。



子どもたちから出た課題ごとに動画を作成して配付しました。また、グループ活動の方法を示したトレーニングカードを準備したり、録音しやすい静かな学習環境を整えたりしました。(光川先生)

①子どもが自己決定、自己選択できる
②「やってみたい」「やってみよう」というモチベーションが高まる
③活動の中で知識や技能が身に付く
④これからの学習につながる経験ができる
授業づくりでは、これらの視点を大切にしたいですね。(徳田先生)

後半は、子どもたちが合唱曲『旅立ちの日に』を歌う中で、様々な課題をもったと想定し、学習形態や学習方法、効果的と考えられる技能指導・支援について話し合った。参加者同士が活発に意見交流する様子が見られ、「休符で手拍子をしてタイミングをそろえる」、「クレシェンドの感じを手で表しながら歌う」など、課題解決方法について多くの考えが出された。

2 みんなで合唱入門！ 講師：滝ノ水中学校 山本高栄先生

合唱曲『変わらないもの』、『この町が好き』を教材に、山本先生が大切にされている指導のポイントを教えていただいた。山本先生は、子どもたちと曲との出会いをとっても大切にされていて、子どもたちが興味を示しそうな動画を視聴させたり、作者の思いを聞く機会をつくらせられているということであった。また、旋律を覚える際は、音源アプリを活用されていることや、女性教師の場合でも、できるだけ男声パートの高さで範唱を聴かせると変声した男子は歌声のイメージが湧きやすいことなど、多くのことを教えていただき、熱心にメモを取る参加者の姿が見られた。

作者の思いに寄り添い、楽譜の中の仕掛けに注目しましょう。



<参加者の声>

- ♪ 小学校1年生でも課題を選択し、〇〇マスターとして課題を追究し、仲間と協働して学び進めることができるのだと分かりました！
- ♪ 山本先生の指導ボキャブラリーに加えて、それを裏付ける正確な音楽理論が大変勉強になりました。すぐに生かしたいと思いました。
- ♪ 作曲者の意図や教師の思い、子どもたちの「こんな風に歌いたい」のバランスを考えながら、子どもたちの心をつかむ授業をしていくことが大切だと思いました。